

2025 年 3 月 13 日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

当院における胆道疾患に対する内視鏡治療の成績の検討

研究の概要

【背景】

胆道癌をはじめとする胆道疾患による胆管狭窄をきたした場合、内視鏡治療を最初に行いますが、胆管疾患は発生部位による病態や解剖が多彩であり、治療介入のタイミングや部位、治療法の選択も施設毎に異なっているのが現状です。

特に胆道癌は治療法の進歩により予後が延長してきていますが、予後の延長に伴い内視鏡治療の回数の増加や、胆管狭窄による急性胆管炎合併による治療の遅れ、抗菌薬使用による治療成績低下の可能性などの問題も報告されています。また IgG4 関連硬化性胆管炎などの良性疾患でも頻回な内視鏡治療が必要となることもあり、胆道感染を抑制する効果的な内視鏡治療法の確立が求められています。

【目的】

本研究では、当院で胆道疾患に対して内視鏡治療を行った患者さんの治療内容、予後を評価することで、より効果的な内視鏡治療介入のタイミングや部位、使用するデバイスをなどの因子を特定します。特定した因子に応じた胆道疾患に対する適切な内視鏡治療法を明らかにします。

【意義】

本研究を行うことで、胆道疾患患者さんの悪性疾患による予後改善や、良性疾患では QOL 改善に寄与できることが期待されます。

【方法】

当院で内視鏡治療を試みた胆道疾患患者さんの病変の局在、内視鏡治療の成否、治療内容、留置したステントの内容、内視鏡処置に伴う合併症の有無、内視鏡治療後の経過、予後を追跡、観察し、より有効性の高い内視鏡治療法を検討します。

対象となる患者さん

2015 年 1 月 1 日～2027 年 12 月 31 日の間に、長崎大学病院にて、閉塞性胆管炎に対して内視鏡治療を試みられた患者さん

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・患者背景：性別、年齢、身長、体重、既往歴、基礎疾患
- ・臨床検査：白血球数（分画）、血小板、Hb、PT、CRP、TP、Alb、T-bil、D-bil、AST、ALT、ALP、 γ -GTP、CEA、CA19-9
- ・画像検査（CT（単純、造影）、MRCP、超音波内視鏡検査）：病変の局在、胆管拡張の有無、肝臓の体積
- ・手術情報：内視鏡治療中の胆管造影所見、留置したステントの種類・サイズ・部位・数
- ・有害事象：内視鏡治療後の感染、急性膵炎、穿孔、出血など合併症の有無、重症度
- ・治療後経過：ステント機能不全（逸脱・閉塞・迷入）・急性胆管炎の有無、抗菌薬使用の有無

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 3 月 19 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2029 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 消化器内科 氏名：高橋 孝輔 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7481
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 消化器内科 高橋 孝輔

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7481 FAX 095（819）7482

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）